

経営比較分析表（令和2年度決算）

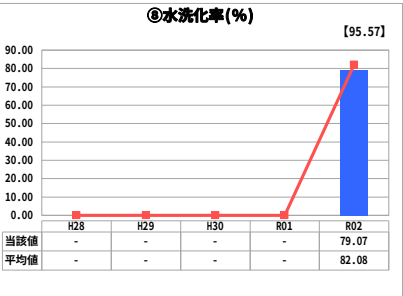
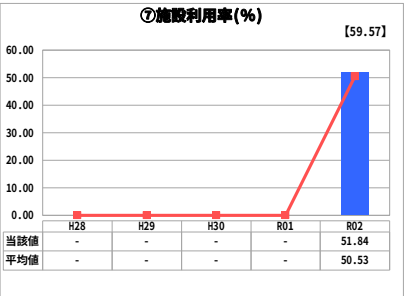
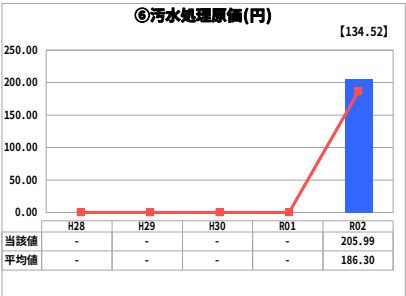
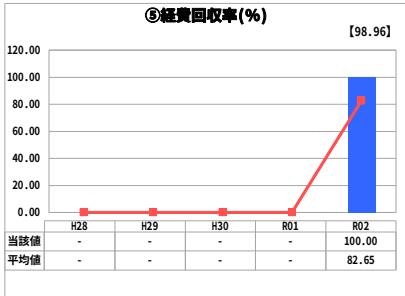
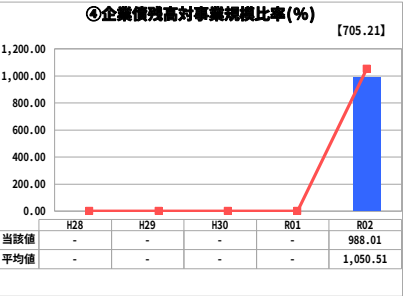
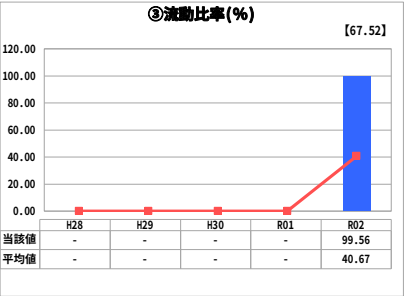
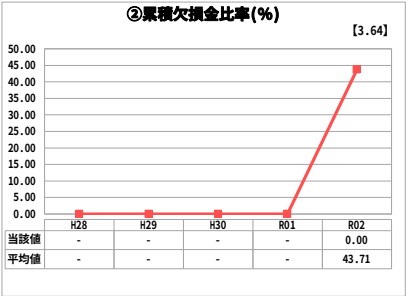
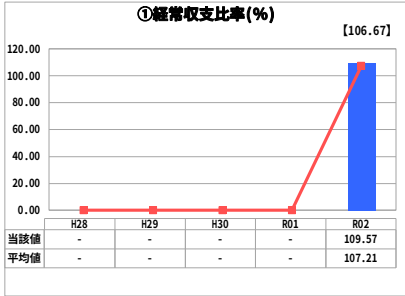
佐賀県 神埼市

業務名	業種名	事業名	類似団体区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Cc2	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m ³ 当たり家庭料金(円)
-	51.65	39.98	85.00	3,850

人口(人)	面積(km ²)	人口密度(人/km ²)
31,262	125.13	249.84
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km ²)	処理区域内人口密度(人/km ²)
12,422	3.75	3,312.53

グラフ凡例
■ 当該団体値(当該値)
— 類似団体平均値(平均値)
□ 令和2年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率については、100%を上回り黒字となっている。累積欠損もなく、良好な状態にある。

流動比率については、100%を下回っているが、一般会計からの繰入を受けているため支払能力は確保されている。

企業債残高対事業規模比率は、類似団体平均を下回ってはいるが、令和7年度概成までは増加の見込みである。

経費回収率については100%となっており、汚水処理費を使用料で賄えている。今後も接続率の向上を図り、経費節減に努める。

汚水処理原価については、類似団体平均、平均値と比較して高い水準となっており、さらなる経費節減が必要である。

施設利用率については、類似団体平均値と比較すると同水準であるが、令和7年度に概成を予定していることから、今後は上昇が見込まれる。

水洗化率については、面整備を進めていることから類似団体、全国平均値との比較よりも低くなっているが、今後徐々に伸びる見込みである。

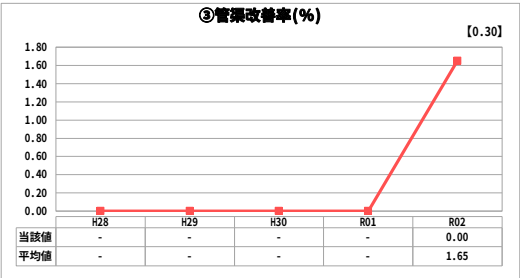
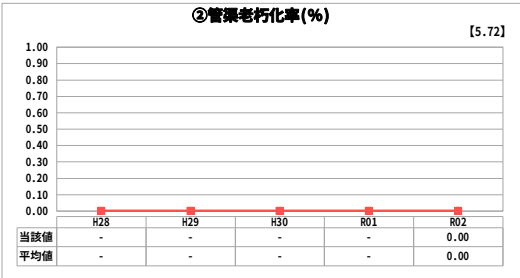
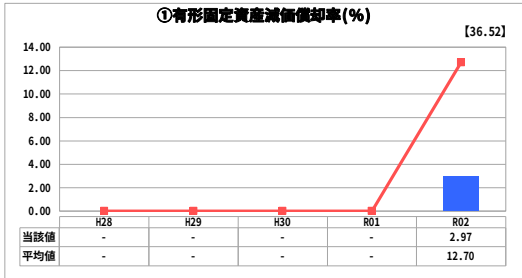
2. 老朽化の状況について

管渠整備が平成10年の着手であり、耐用年数(50年)を超えたものもなく施設、設備等が比較的新しいことから有形固定資産減価償却率が低くなっている。また、更新等も行っていないことから、管渠改善率は未算出である。

全体総括

今後も下水道施設の整備が進んでいき、接続率も上昇が見込まれるが、地方債の償還も増加していくことから、引き続き接続率向上による使用料収入の確保、経費削減に取り組むことで、経営の効率化に努め、将来の更新需要にも対応できるよう利益を確保していきたい。

2. 老朽化の状況



※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のための類似団体平均値及び全国平均を算出しています。